令和８年１０月２７日

日立理科クラブ通信

Ｎｏ.２７７

第１９回　ひたち水ロケット大会

１０月１８日(日)、滑川市民広場を会場にして行われた水ロケット大会について紹介します。

昨年・一昨年と雨天のため開催できませんでしたが、今回は秋晴れに恵まれ、絶好の水ロケット日和となりました。

今年の大会は、①初となる滑川市民広場での開催、②レーザーを使った距離測定による測定時間の短縮、③希望者を対象に予め理科クラブで用意した水ロケットを親子で協力して飛ばす「親子で跳ばそう」企画など、新たな取り組みも計画しました。また、水ロケットチームは、当日の天気や市民広場の大きさを考慮して、５気圧、発射角度４５度と設定しました。



参加者

参加者は事前に作成した水ロケットを持って会場を訪れました。受付が終わると、機体に名前を貼り、機体検査、必要があれば修理していました。当日の参加者は、幼稚園児や小学生などで、飛距離の部に３０名、滞空時間の部に９名がエントリーしました。


受付から機体検査へ


発射を待つ水ロケット

開会式では、瀧澤代表理事からは「勝ち負けだけではなく、形はなぜこうなっているのだろう、なぜ飛ぶのだろうと考えて欲しい」、多くのご来賓を代表して日立市教育委員会折笠教育長からは「科学する楽しさを味わってほしい」と、あいさつがありました。

いよいよ飛距離の部のスタートです。エントリー番号１番から、水ロケットを発射台にセットし、空気を入れていきます。５気圧まで入れるのは、小さいお子さんには難しいので、理科クラブのメンバーが支援しました。


折笠教育長をはじめとした来賓の方々

発射準備が整うと、「５・４・３・２・１」と会場のみんなでカウントダウンし、「はっしゃ！」。水ロケットは水しぶきを上げて発射され、風に乗ってぐんぐんと飛んでいきます。高く上がって風に乗ったり、回転しながら低く飛行したりして１００ｍを超える飛行が続出です。参加者たちは満足した笑顔を見せてくれました。エントリー番号９番の瀧澤さんのロケットは、フェンスに届く大飛行でした。


５・４・３・２・１はっしゃ！

続いて、滞空時間の部です。水ロケットに落下傘を付けて、発射から着地までの滞空時間を競います。落下傘がどこで開くかがポイントです。トップの位置で開くと滞空時間も長くなります。山田さんの水ロケットは、高いところで開き、風に乗ってゆっくりと下りてきました。

最後の「親子で飛ばそう！」では、親子で力を合せて空気を入れたりロケットを飛ばしたりと、親子で科学を楽しく体験しました。


滞空時間の部

飛距離と滞空時間の競技、そして「親子で飛ばそう！」ともに参加者や保護者の方々は、十分に楽しんだように思います。参加者は、楽しかった、長く飛んでうれしかったという感想を述べてくれました。自分だけではうまく作れなかったが、おじさんたちが支援してくれたのでうまくできたとも述べてくれました。

大会の結果は次の通りです。

飛距離の部　①瀧澤　律さん 122.8m、②山田　潤さん 120.6m、③矢内　努朋さん　116.8m。

滞空時間の部　①山田　潤さん 17.2 秒、②清末　奏太さん 12.7 秒、③山田　湊さん 12.4 秒。

それぞれに、①日立市教育長賞、②日立事業所長賞、③日立理科クラブ賞が贈られました。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104